

問1 豊臣秀吉が行った太閤検地が、日本の歴史において「中世から近世への転換点」とされる理由として、最も適切な説明はどれですか。 (2019年 福岡県公立入試 類似)

1. 荘園領主の土地支配権を否定し、全国一律の基準で農民から直接年貢を徴収する仕組みを確立したため。
2. 古代から続く公地公民の原則を復活させ、すべての土地を朝廷が管理する制度に戻したため。
3. 土地の売買を完全に自由化し、貨幣経済に基づいた近代的な地租改正の先駆けとなったため。
4. 武士が農村に住み続けることを奨励し、自給自足の村落共同体を強化して鎖国体制を準備したため。

問2 室町時代に京都を主な舞台として発生し、その後の社会に大きな影響を与えた「応仁の乱」に関する説明として最も適切なものを選びなさい。 (2015年 鳥取公立入試 類似)

1. 将軍の跡継ぎ問題や守護大名の対立が原因で始まり、戦国大名が各地で実力により領地を支配する「下克上」の風潮を強める要因となった。
2. 元軍による二度にわたる侵攻に対して幕府が御家人を動員した戦いであり、恩賞の不足から鎌倉幕府が衰退するきっかけとなった。
3. 源氏と平氏が政権をめぐって争った戦乱であり、勝利した源頼朝が鎌倉に幕府を開く直接のきっかけとなった。
4. 織田信長が足利義昭を追放したことで室町幕府が滅亡し、近世に向けた天下統一の動きが加速した。

問3 16世紀、キリスト教を伝えるためにフランシスコ・ザビエルが鹿児島県に上陸した時期と重なる大航海時代において、スペインの支援を受けて出発し、その船団が史上初めて達成したことは何か。 (2016年 長崎県公立入試 類似)

1. 世界一周の達成
2. アフリカ南端の喜望峰への到達
3. 東方見聞録の執筆
4. 北米大陸への植民地建設

問4 「市に居住する者は自由に領内を往来してよい」「市場の税を免除し、自由な商売を行うことを認める」といった内容の布告を織田信長が出した目的として、最も適切なものはどれですか。 (2024年 北海道公立入試 類似)

1. 城下町の商業を盛んにして、天下統一のための経済力を蓄えるため
2. 農民と商人の身分を明確に区別し、土地の所有権を確定させるため
3. キリスト教の布教を制限し、寺院の勢力を抑えるため
4. 武器の使用を制限することで、農民による一揆を未然に防ぐため

問5 16世紀初頭にスペインの船団を率いて出発し、南アメリカ大陸の南端にある海峡を抜けて広大な海へと出た後、世界で初めてとなる一周の航海を成し遂げた人物を選びなさい。 (2017年 岩手県公立入試 類似)

1. マゼラン
2. コロンブス
3. バスコ・ダ・ガマ
4. アメリゴ・ヴェスプッチ

問6 16世紀に行われた南蛮貿易の特徴について、それ以前に行われていた日宋貿易や日明貿易と比較した説明として最も適切なものはどれですか。 (2026年 岐阜公立入試 類似)

1. ポルトガルやスペインを相手とし、キリスト教の布教を伴って行われた。
2. 明の皇帝に対して日本が朝貢する形式をとり、勘合という札を用いて行われた。
3. 宋から大量の銅銭を輸入し、日本の貨幣経済を浸透させる目的で行われた。
4. 幕府がキリスト教を禁止したため、長崎の出島でオランダ人のみを相手に行われた。

問7 織田信長が安土城下で出した法令の要約において、「この場所を楽市とし、これまで存在した『座』の特権を廃止し、さまざまに税や労役を免除する」という主旨の内容が記されています。信長がこのような政策を行った主な目的として、最も適切な説明はどれですか。 (2023年 群馬県公立入試 類似)

1. 寺社や公家の勢力を強めることで、古い慣習に基づいた流通網を維持するため
2. 商工業者から高額な税を徴収し、全国統一に向けた軍事費を確保するため
3. 特権的な団体の独占権を排除して自由な取引を認め、商工業を発展させるため
4. 城下町に住む人々を農業に専念させ、食料生産を安定させるため

問8 16世紀半ばに種子島へ漂着した船に乗っていた人々によって、日本に鉄砲が伝えられました。この鉄砲を伝えた人々の国名と、その後、高度な金属加工技術を活かして鉄砲の大量生産を行い、商工業の発展とともに繁栄した都市の組み合わせとして適切なものはどれですか。 (2021年 滋賀公立入試 類似)

1. ポルトガルと堺
2. スペインと堺
3. イギリスと博多
4. オランダと長崎

答え合わせ・解説

| | | |
|----|--|---|
| 問1 | 答え 1 荘園領主の土地支配権を否定し、全国一律の基準で農民から直接年貢を徴収する仕組みを確立したため。 | 中世の土地制度（荘園制）では、一つの土地に対して貴族や寺社など複数の権利者が重なり合っていました。太閤検地によってこれらの複雑な関係が整理されました。全国で統一された枡（京枡）を用いるなど、公平かつ強力な統治システムを構築したことで、武士が領主として農民を支配する近世的な社会構造（幕藩体制）への移行が決定づけられました。 |
| 問2 | 答え 1 将軍の跡継ぎ問題や守護大名の対立が原因で始まり、戦国大名が各地で実力により領地を支配する「下克上」の風潮を強める要因となった。 | 応仁の乱は、室町幕府の第8代将軍・足利義政の継嗣問題や、有力守護大名である細川氏と山名氏の対立などが複雑に絡み合って発生しました。この戦乱により幕府の権威は完全に失墜し、地方では実力のある者が上の者を倒して勢力を広げる「下克上」が一般的となり、約100年続く戦国時代へと移行しました。他の選択肢は、蒙古襲来、治承・寿永の乱（源平の争乱）、室町幕府の滅亡に関する説明です。 |
| 問3 | 答え 1 世界一周の達成 | 1519年にスペイン王の援助を受けて出発したマゼランの船団は、南米南端の海峡を通過して太平洋を横断した。マゼラン自身はフィリピンで戦死したが、残された部下たちが1522年にスペインに帰還し、人類史上初めての世界一周を成し遂げた。これにより、地球が球体であることが事実として証明され、人々の世界観に大きな影響を与えた。 |
| 問4 | 答え 1 城下町の商業を盛んにして、天下統一のための経済力を蓄えるため | 信長は、戦国大名としての勢力を拡大するために、流通の拠点となる城下町に多くの商人を集める必要がありました。税を免除し、従来の座のしがらみをなくすことで、物資の集散を活発にし、その経済力を軍事費や政治工作の資金源としました。 |
| 問5 | 答え 1 マゼラン | スペインの支援を受けたマゼラン（マガリヤニス）の船団は、大西洋から南アメリカ南端の海峡を通過して未知の海に出ました。その海が非常に穏やかであったことから「太平洋」と命名し、最終的にフィリピンへと到達しました。マゼラン本人はフィリピンでの争いにより命を落としましたが、同行した船員たちが1522年にスペインへ帰還し、地球が球体であることを実証する世界一周を完成させました。 |
| 問6 | 答え 1 ポルトガルやスペインを相手とし、キリスト教の布教を伴って行われた。 | 南蛮貿易は、それまでの中国王朝（宋や明）との貿易とは異なり、ヨーロッパ諸国が相手でした。イエズス会などの宣教師が貿易船に同乗して来日し、布教活動と貿易が一体となって進められた点が最大の特徴です。日明貿易で使われた「勘合」や、江戸時代の「出島でのオランダ貿易」とは時期や背景が異なります。 |
| 問7 | 答え 3 特権的な団体の独占権を排除して自由な取引を認め、商工業を発展させるため | 中世の商業は「座」と呼ばれる特権団体が市場を独占し、その見返りとして寺社などに税を納める仕組みが主流でした。信長は安土城下などでこの「座」の特権を廃止し、市場の税（関銭など）を免除する「楽市・楽座」を実施しました。これにより、新興の商人が自由に商売を行える環境を整え、城下町の経済を活性化させることで、自身の経済基盤を強化しようとしていました。 |
| 問8 | 答え 1 ポルトガルと堺 | 1543年に種子島へ漂着したポルトガル人によって、日本に初めて鉄砲が伝えられました。この新兵器は、自治都市として栄えていた和泉国の堺や紀伊国の根来などの職人によって国産化が進められ、大量生産されるようになりました。これにより、戦国時代の戦い方は騎馬戦から足軽による集団戦へと大きく変化しました。 |